

明昭 感染対策委員会 秋号

だより 秋号
R元年10月

感染症の発生しやすい時期や特徴を
把握して事前対策をこころがけましょう

集団感染の可能性のある感染症

☆ インフルエンザ 【12月～3月に流行】

急に高い熱が出るのが特徴です。発熱とともに悪寒や頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状も強く、鼻汁や咳などの症状は発熱のあとから出てきます。また、気管支炎や肺炎を併発しやすく、重症化すると脳炎や心不全を起こすこともあります。

☆ 感染性胃腸炎 【ノロウイルス：秋～冬 / ロタウイルス：3～5月】

細菌やウイルスなどの感染により、主に嘔吐・下痢の症状がみられます。ノロウイルスとロタウイルスによる胃腸炎がよくみられ、その他にアデノウイルスやエンテロウイルス等が原因となることもあります。嘔吐と下痢を主な症状として、脱水、電解質喪失症状などがみられます。症状の現れ方や程度は個人によって異なります。

☆ 腸管出血性大腸菌感染症 【7月～9月ごろ】

ベロ毒素を作り出す大腸菌に汚染された食べ物を摂取することで起こり、原因菌としてO-157が多くみられます。下痢（軽度～頻回の水様便）、腹痛、血便、発熱（多くは37度台）などがみられます。下痢や腹痛のどちらかのみがみられる時があれば、両方伴う時もあります。

上記以外に時期を問わず、痂皮型疥癬・結核・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（MRSA）・肝炎（B型、C型）など、様々な感染症があります。



感染症対策の基本は？

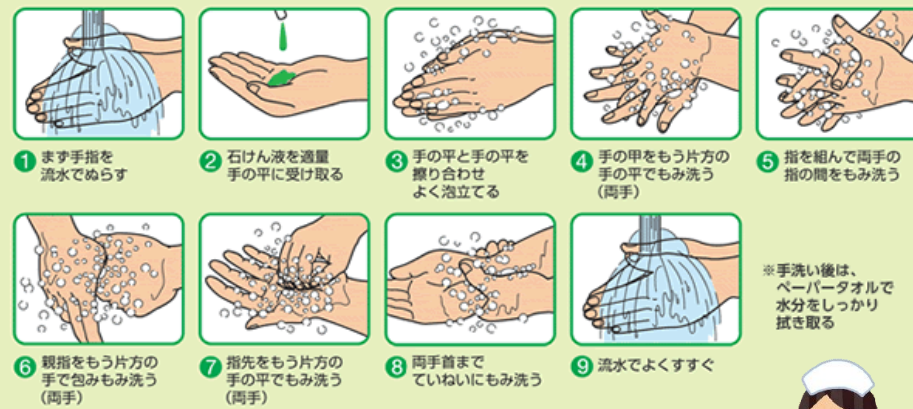
「手」は人間にとって便利な道具です。手指を使ってさまざまな行為が行われたり、あらゆる場所で共通の物に触れるため、代表的な伝播経路になります。

正しい手指衛生を行うことが、感染症や食中毒を起こさないために重要です。

右図は手洗いが不十分になりやすい箇所を示したものです。特に指先は手洗いが不十分になりやすく、感染リスクが高くなりやすいので、ポイントを押さえた手洗いが重要です。



手洗いの手順例



インフルエンザウイルスの豆知識

実はインフルエンザウイルスは1年中存在しています。しかし、冬場に罹りやすくなるのは、インフルエンザウイルスにとって温度20度前後、湿度20%前後が最も生存に適した環境のため、冬の気象条件はウイルスにとって非常に都合が良いのです。

一方、人側の要因として、寒いところでは、鼻・のど・気管などの血管が収縮して線毛の動きが鈍くなります。線毛はウイルスや細菌の侵入をできるだけ少なくする働きをしますので、働きが悪くなるとウイルスが侵入しやすくなります。冬は窓を閉め切った部屋にすることが多くなりますので、中に患者が一人でもいて、せきやくしゃみでウイルスをまき散らせば容易にうつる訳です。

